

東日本大震災から6年、
東京 Y W C A の被災者支援の取り組みについて

池上三喜子 (東京 Y W C A 東日本大震災被災者支援プロジェクト)

2011年3月11日に発生した東日本大震災以降、東京 Y W C A は新地町災害ボランティアセンターへのボランティア派遣、被災地訪問スタディーツアー、明治大学との共催による「東日本大震災の風化を防ぐフォーラム」など、その年その年でできることを実施してきました。

2015年の暮れに東京で実施した6泊7日の転地保養プログラムは、東京 Y W C A の会員をはじめ、キャンプや青少年活動のリーダー、留学生、一般公募の大学生など、実に多くのボランティアが協力してくださり、参加者もボランティアも共に育ちあった印象深い活動となりました。

これらの活動を財政的に支えているのは、2011年以降、毎年実施している被災者支援バザー、チャリティーコンサート、ドイツ文学講座、被災者支援募金などです。特筆すべきは、被災者支援バザー実行委員が広報のため手分けをして、区や市の社会福祉協議会をたずね、東京へ避難している人たちへの関わり方を聴取したことです。それが功を奏し、2016年9月に東京 Y W C A がオブザーバー参加している広域避難者支援連絡会 in 東京との共催で実施した広域避難者支援シンポジウム「東日本大震災から5年、避難者のいま」には、多くの参加者を得ることができました。

震災から6年がたち、他団体が転地保養プログラムから撤退を始める中、東京 Y W C A 東日本大震災被災者支援プロジェクトでは、安全で質の高い転地保養プログラムを、これまで通り継続して実施したいと考えました。具体的には、保養を必要としている人に対しては、青少年育成事業部で実施する東京 Y W C A 野尻キャンプ場の8月と3月のプログラムに福島の子供たちをつくり提供することです。

避難している方々は、一部の地域を除いて2017年3月末で、応急仮設住宅の提供は打ち切られ、その後の生活や将来の不安を抱えていることは周知の通りです。東京 Y W C A は日本 Y W C A と共催で、東京近郊に避難している人を対象に2月3日と4日の2回、相談会を実施しました。

2016年11月の日本 Y W C A 全国総会で、福島市に拠点として置いて

いる「カーロふくしま」の継続が決まりました。日本 Y W C A が福島に拠点を置いている意味は、放射能に不安を持つ母親を支えることにあります。東京 Y W C A としては、「カーロふくしま」が保養を希望する人と、地域 Y W C A を含む保養団体をつないでいく中間団体の役割をとっていただきたいと思います。

2016 年 12 月 10 日、J R 新地町駅が開通したので、ここ数年お休みしていた被災地訪問スタディーツアーを 2017 年秋は実施する予定です。被災地の復興も視野に、福島の良さも体験できるよう宿泊場所は福島交通観光に推薦していただき、決めることにしています。多くの皆さまのご参加を期待しています。

10 年間の支援を目標にした歩みも後半に入ります。引き続きご支援をよろしくお願いいたします。